様式-1

第24回日本水大賞　応募用紙

（整理番号：　　）

活動の名称	フリガナ　オゼコクリツコウエンヤカタシナガワゲンリュウイキヲブタイニシタミズカンキョウガクシュウ 尾瀬国立公園や片品川源流域を舞台にした水環境学習									
記入年月日	活　動　主　体					活　動　分　野				
2021年10月29日	該当する活動主体に〇（1つまで）					主な活動分野に◎（1つまで） その他関連する活動分野に〇				
	学校	企業	団体	個人	行政	水防災	水資源	水環境	水文化	復 興
	（〇）	（　）	（　）	（　）	（　）	（　）	（〇）	（◎）	（　）	（　）

活動主体の概要

活動主体の名称（個人応募の場合は個人名）	フリガナ　グンマケンリツオゼコウトウガッコウ　シゼンカンキョウカ 群馬県立尾瀬高等学校　自然環境科		
代表者名（団体の場合）	フリガナ　ナガヤ　マサエ 長屋　昌恵	設立年月日	1963年4月20日（前身の武尊高校） 1996年4月1日（改称後の尾瀬高校）
所 在 地	フリガナ　グンマケン　ヌマタシ 群馬　県　沼田　市　区・町・村		
主な活動地	①尾瀬国立公園　②武尊山　③片品川（吹割の滝）　④片品村牛の平地区　⑤校内		
組織の概要（個人の場合は履歴を記入）	本校は1996年に全国で初めてで唯一の自然環境科を設置した。尾瀬をはじめ周辺域の豊かな自然環境をフィールドに体験型の環境教育を行い、「人と自然との共生」を図ることのできる人づくりを目指し、自然観察会をはじめ、動植物や大気、水質など総合的な環境調査を授業や課外活動などで行っている。		

応募活動の概要：（文字サイズ10.5pt～、300文字以内で記入して下さい）

本校の立地を活かし、尾瀬国立公園、ブナの自然林が広がる武尊山「水源の森」、日本百名瀑の吹割の滝、そこを流れる片品川を舞台に授業や課外活動を通して、あらゆる調査研究や体験活動を実施している。具体的には２０年以上実施している尾瀬ヶ原水質調査や、武尊山や吹割の滝での自然環境調査、マイクロプラスチック調査、地域住民と一緒に行う水生生物観察や希少種の保護活動、「川遊び」を通した親水活動を行っている。これらの活動から、生徒一人一人が地域の水環境の豊かさについて認識し、「総合的な探究の時間」と関連させ、いかに保全していくかを考え、卒業後も豊かな水環境を維持するために責任ある行動をとれる人を育成している。

応募活動のアピールポイント：（文字サイズ10.5pt～、箇条書き100文字以内で記入して下さい）

①学校の立地を活かし、生徒が主体となって行っている活動
②源流域の水環境を題材にし、探究心を育む活動
③学校と地域が一緒になっている活動
④川に実際に入って遊ぶなど親水活動
⑤希少種の水生生物を保全する活動

これまでの受賞歴：　特になし
※日本水大賞における
これまでの応募実績：第（　　）回、　受賞歴：第（　　）回（　　）賞

「日本水大賞」をどこで知りましたか？（数字に〇印を付けて下さい）
１．新聞広告　　２．官庁内ポスター　　３．日本河川協会ホームページ　　４．水大賞事務局からの案内
５．国の機関からの誘い　　６．県・市町村からの誘い　　⑦．教育関係機関
８．日本河川協会ホームページ以外のインターネットの情報　　９．その他（　　）

（整理番号：　　）

活動の概要

目的：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

本校自然環境科は『「自然との共生」を図ることのできる人づくり』を目指し、体験活動を重視した環境教育を２０年以上、行ってきた。水環境をはじめとした地域の自然環境を将来にわたって維持し保全していくためには、教員が生徒に対して一方的に環境問題や環境に配慮した行動様式を教えるよりも、卒業後も一人一人が環境に対して責任ある行動をとれるよう、感受性を豊かにし、科学的な見方から思考し判断する力や、真理を探究する態度を身につけることが大事だと考えている。その上で尾瀬や武尊山「水源の森」、吹割の滝や片品川など豊かな水環境が身近な場所にある本校の立地を生かし、生徒が主体となった多様な教育活動を行っている。

このように豊かな水環境を保ち、健全な水循環系を達成するためにも、目指すべき生徒像をしっかりともち、それに基づいた教育活動を行っている。そして、卒業後もそれぞれがライフワークの一環として、水環境の豊かさを維持する活動に関わったり、その重要性を一人でも多くの他者に伝えていけるよう、あらゆる意味での責任ある行動ができる人を目指している。

内容：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

（１）尾瀬ヶ原水質調査　※資料①：現２年生が作成した生徒作のレポート１枚

本校自然環境科が設立された１９９６年より毎年夏に２年生全員が尾瀬ヶ原で水質調査を行い、３６カ所の定点観測地点でｐＨやＥＣ、ＤＯ、ＣＯＤなどを測定している。測定機器やパックテストを活用し、目では直接測ることができない水質について、科学的に明らかにし、地点ごとの違いや経年変化などを調査している。この調査活動を通して生徒一人一人が河川や池塘、湿原など尾瀬ヶ原には多様で変化に富む水環境があることに気づき、その普遍的な価値についてより深く学ぶことにも繋がっている。

（２）尾瀬ヶ原マイクロプラスチック調査　※資料②：現２年生が作成した生徒作のレポート２枚

２０２１年に課題研究を履修する２年生の立案により、尾瀬ヶ原内を流れる５か所の河川を対象にマイクロプラスチックをテーマにした調査を行った。東京理科大学理工学部土木工学科と連携して調査を行った結果、マイクロプラスチックは５地点中、１地点で検出なし、他４地点もごく僅かとなり、先行事例と比較しても、全国でも稀な結果となるなど、極めて良好な水環境が保たれていることを突き止めた。特に廃棄物由来のマイクロプラスチックがほぼ無いことが分かり、この背景には尾瀬で５０年以上続けられている「ごみ持ち帰り運動」など入山者のマナーが関係あるのではないかと示唆された。

（３）吹割の滝と武尊山「水源の森」の自然環境調査

１９９６年より毎年、２年生を中心に年間を通して、植生や昆虫、野鳥や哺乳類などを対象にした自然環境調査を行っている。学校から車で５分ほどの場所にある吹割の滝は片品川がそのまま流れ込む名瀑であるが、水辺の環境を中心に２０種類以上の野鳥を、同じく車で２０分ほどにあって片品川の水源にある武尊山「水源の森」では、ブナの自然林をもとにした植生、それをもとに生息している哺乳類や昆虫類など豊かな生態系など、水環境の豊かさを裏付けるデータを毎年、記録している。

（４）「ネイチャークラブ」における川遊びと水生生物観察　※資料③：参加者向けチラシ１枚

２０００年より毎月第３土曜日に「ネイチャークラブ」というイベントを学校で実施しており、卒業生や地域住民など一般の参加者と一緒になって、校内で自然体験活動を実施している。毎年６～８月にかけて校内の自然植物園にある池で水生生物の観察を行ったり、学校裏を流れる片品川で川遊びを行ったりしている。この際、（公財）河川財団による動画教材を活用し、リスクマネジメントを学習してから実際に川に入るなど、生徒も参加者も安全に親水活動ができるよう配慮している。

（５）希少種の水生生物保全活動

２０２１年より学校から４kmほどの場所にある片品村牛の平地区にある池で、地域の方も一緒になって水生生物の観察と調査を行い、群馬県で準絶滅危惧種に指定されているアカハライモリやコオイムシなどの希少種を発見した。この地区は今後、農業基盤整備事業により造成が行われ、池も干拓されてしまうため、専門家による助言も含めながら保全活動を始め、自然植物園の池や、地域の方のご厚意で用意された休耕田に希少種を移動させた。今はその推移を観察し始めている。

活動期間	自　１９９６年１月　～　至２０２１年１０月（通算２５年６ヶ月）

上記の期間以前から一部の活動を実施していた場合はその期間と内容を下に記入して下さい。

（整理番号：　　）

活動の必要性・緊急性：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

２００５年にラムサール条約にも登録された尾瀬は、その豊かな水環境を将来にわたって保全していく必要がある。そのため、毎年実施している水質調査を通して、尾瀬の水質に変化がないかを調べていく必要があり、さらに近年、世界的な問題となっているマイクロプラスチックについても変化がないかを見守っていく必要がある。武尊山や吹割の滝での調査活動についても同様で、首都圏の水がめでもある片品川の源流域において、毎年の調査から変化がないかを見守っていく必要がある。

また、地域で希少種が見つかった水生生物について、さらにその詳細を調べたうえで適切に保全活動を続けていくことが必要だと考えられる。さらに、年々、川遊びなど川に親しむ経験が高校生の間で乏しくなっているため、こういった機会を積極的に設けていくことも不可欠である。

活動の効果・社会への波及効果：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

各活動を通して、本校周辺地域において、どれだけ水環境が豊かであるかを明らかにし、その成果については毎年、学校主催の外部向け成果発表会や市内外で開かれる環境系イベント、高校生向けの理科系コンクール等で報告している。さらに、３年生は授業の一環として県内外の小中学生に対して尾瀬ヶ原で自然観察会を開いている。これらのことから、学校内だけでなく地域住民やあらゆる世代の人に対して、学校周辺地域に残された水環境の豊かさや、これを保全していくことの大切さについて、世間に広く啓発している。また、尾瀬ヶ原の水質調査については、その結果が尾瀬に関する解説書（「尾瀬自然観察手帳」JTBパブリッシング刊」）に掲載されるなど、文献引用にも活用されている。

活動を実施する上での留意点、工夫された点、苦労された点：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

尾瀬や武尊山、吹割の滝などで調査研究活動を毎年継続して実施していくことは、それだけで難しいことである。科学系部活動による調査活動ではなく、授業の一環として調査しているため、全ての生徒が扱えるよう簡易的に操作できる機器やパックテストを活用して水質調査を行っている。武尊山「水源の森」や吹割の滝での環境調査においても、環境省生物多様性センターによる「モニタリングサイト１０００」をベースに全ての生徒が取り組みやすいように意識し、調査研究を行っている。

また、マイクロプラスチック調査や水生生物調査のように、特定の生徒の興味関心に応じて専門的な研究活動を行うこともあるが、この場合には外部の専門機関と積極的に連携し、適宜、指導助言を得ながら活動を進めることを意識している（生徒がメール等で外部に連絡し、連携が実現することもある）。

さらに、「ネイチャークラブ」での川遊びや牛の平地区における水生生物調査、希少種の保全活動など、地域住民や卒業生が参加し、一緒になって活動することがあり、学校単独で活動を行うことにとらわれず、ここでも積極的に外部と繋がり、協働的に取り組みを進めることを意識している。

これらの結果、今に至るまで長年にわたって継続して各活動ができたり、新たな活動が生まれたりしていると考えている。

活動の今後の計画：（文字サイズ10.5pt～で記入して下さい）

本校周辺には尾瀬や武尊山、片品川など水環境が豊かな場所であり、ややもすれば高校生をはじめ、地域住民もそのことが当たり前となってしまっている節があるようにも思う。しかしながら、今後は気候変動の影響等により、水環境を含めた自然環境全般が変化していくことも容易に想像できる。本校が継続してきたあらゆる活動の成果は変化する環境を客観的に評価できすることができる。そのため、今後もできる限り活動を継続させ、その時々のニーズに合わせて活動を修正していきたい。

本校自然環境科が設立されて２５年が経ち、卒業生も600名を数えるようになった今、卒業生の知見、手により活動を支え、地域の水環境の豊かさを維持していきたい。そして、最終的には『「自然との共生」を図ることのできる人づくり』という自然環境科の目標のもと、本校周辺地域を始め、卒業後も卒業生一人一人がそれぞれの場所でよりよい水環境が創出できるようにしていきたい。

応募推薦者（必要な場合にご記入下さい）

氏　名		推薦の言葉　：
所　属		
氏　名		推薦の言葉　：
所　属		